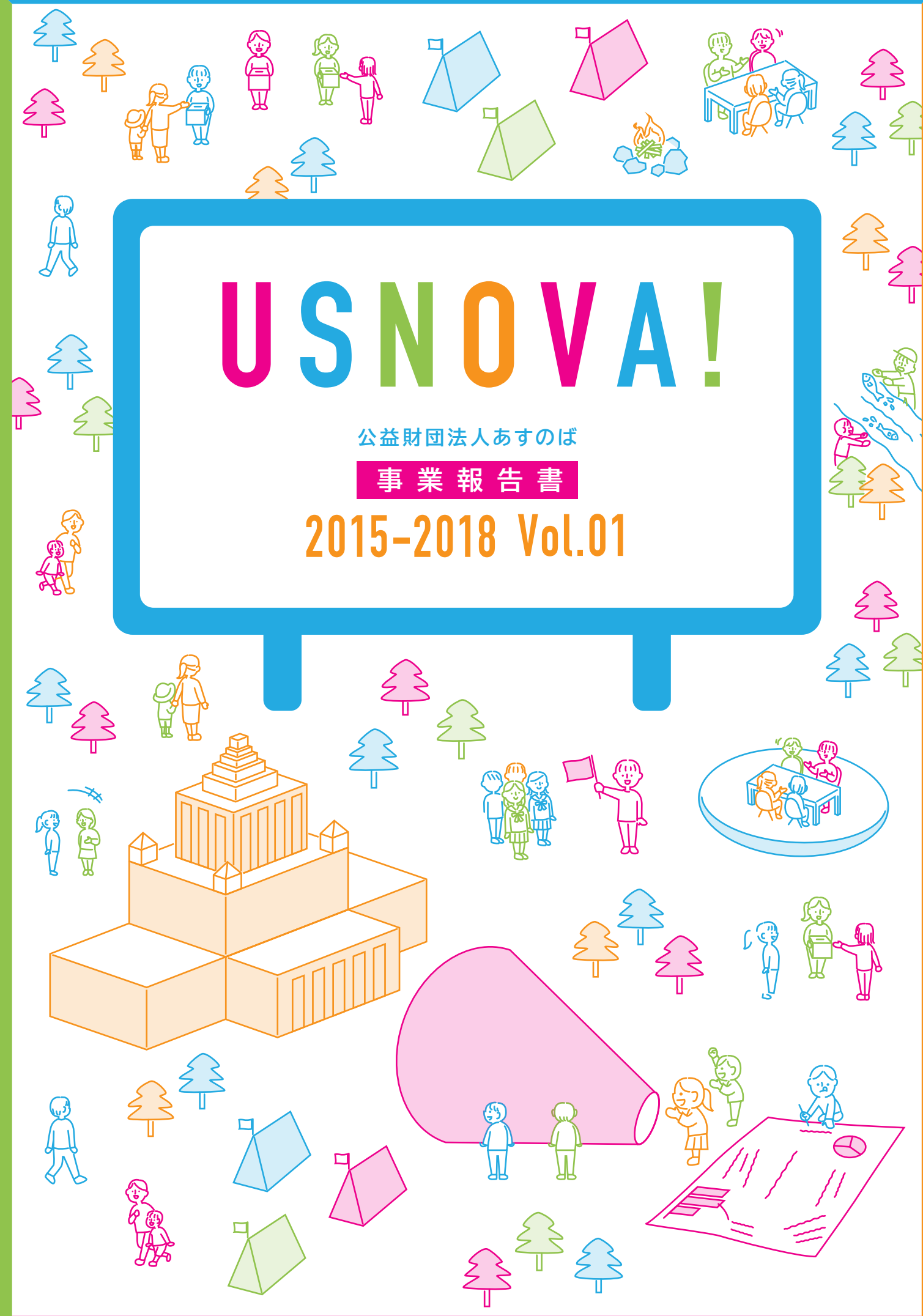




公益財団法人 あすのば

〒107-0052
東京都赤坂3-21-6 河村ビル6F
TEL: 03-6277-8199
FAX: 03-6277-8519
Email: info@usnova.org
URL: www.usnova.org

発行: 2019年7月
デザイン: NPO法人Co.to.hana



USNOVA!

公益財団法人あすのば

事業報告書

2015-2018 Vol.01

子どもたちと明日をつくる



子どもの貧困対策法成立から満2年を迎えた2015年6月19日に、子どもの貧困対策センター「あすのば」は誕生しました。

あすのばには、「明日の場」とあるとともに、「US(私たち)」と「NOVA(新しい・新星)」という意味が込められています。子どもたちに「ひとりぼっちじゃない」と感じてほしい。そして、多くの人に子どもの貧困問題を自分事を感じてほしいという「私たち」でもあります。

この事業報告書では、私たちの4年間の取り組みや、出会ってきた子ども・若者たちの声を掲載しています。子どもの貧困がない社会を目指して、これからも私たちは、子ども・若者たちと、そして応援して下さるすべての方々とともに、明日をつくっていきます。

USNOVA!

2015-2018 Vol.01

CONTENTS

00_ PROLOGUE	02
01_ 日本の子どもの貧困とは	04
02_ あすのばの3つの活動	06
03_ あすのばの事業	
政策提言	08
中間支援	10
直接支援	12
04_ 若者たちの座談会	14
05_ 啓発活動	16
06_ あすのば応援団のご案内	17
07_ 会計報告	18
08_ 団体概要	19

あすのばが考える 日本の子どもの貧困とは？

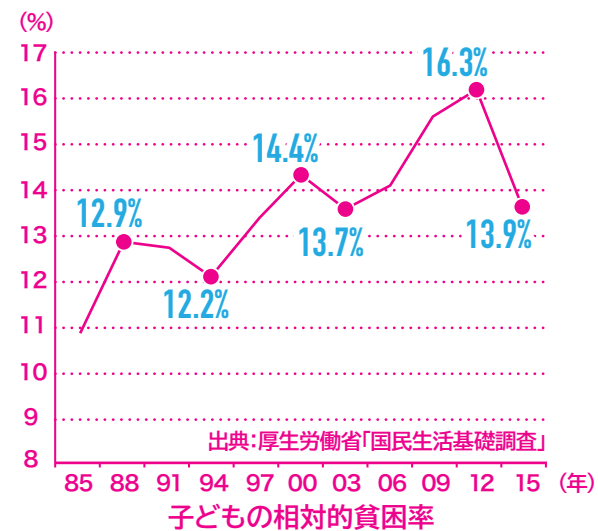
日本の子どもの貧困状況と対策

増え続ける非正規雇用、母子家庭

子どもの相対的貧困率※は、厚生労働省によると13.9%(2015年)で、7人に1人の子どもが貧困状態とされています。とりわけひとり親家庭の貧困率は50.8%であり、先進国でもワーストレベルで、深刻な問題となっています。

あすのばでは、全国の子ども・若者や支援者・研究者との議論を通して、子どもの貧困を「貧軸(経済的な視点)」と「困軸(困りごとやしんどさの視点)」の2軸でとらえ、貧困率だけでは見えない多面的な子どもの困難に向き合っています。

※子どもの相対的貧困率：その国の文化・生活水準等と比較して困窮した状態。日本では、世帯の所得が、その国の等価可処分所得の中央値の半分(貧困線)に満たない状態で暮らす子どもの数の割合のこと。



子どもの貧困対策法の見直しへ

2009年に日本で初めて子どもの貧困率が発表され、親を亡くした学生たちが法律の制定を提唱しました。そして、2013年6月に多くの国民が声をあげて、「子どもの貧困対策法」が成立。2019年5月には、施行から5年が経過し、「子どもの貧困対策推進議員連盟」が中心となり、民間団体などの提言を受けて、法律改正へ動き出しました。



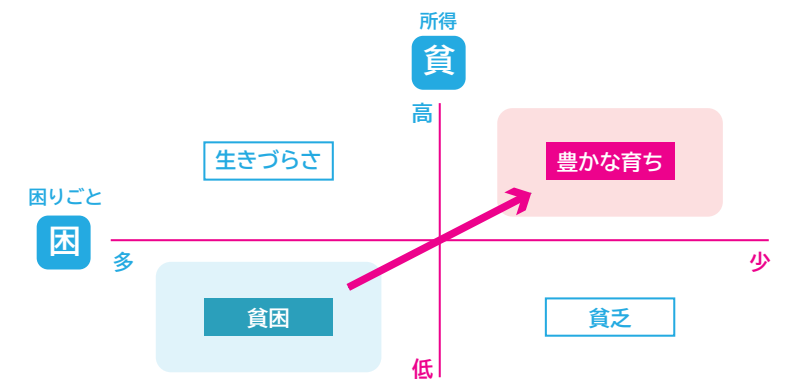
若者の言葉から考える“貧困”

“貧困”は単に所得が低いことだけではなく、
所得が低いことで生じる困りごとやしんどさを含めた状況が“貧困”である

ひとり親家庭に育ったひとりの若者が「私の家庭は貧乏だったけど、貧困ではなかった」と話してくれたことがあります。詳しく話を聞くと、確かに家族は経済的に厳しい状況だったけど、生活や勉強でいろいろな人に助けをもらいながら育ったため、若者自身が困ったと思ったことは少なかったのだそうです。あすのばは、若者たちのリアルな声を大切に、子どもの貧困を「貧」と「困」の両軸から解決していく必要性を訴えています。

あすのばの考える「貧困」

あすのばは、「困りごと」に対し困ったときに頼れる人を増やすことや「所得」の低い家庭に対し生活や教育費などの負担を削減するアプローチを行なっています。「困りごと」と「所得」の両軸が解決されることにより、「貧困」から「豊かな育ち」へ移行できることを目指しています。



「子どもの生活と声1500人アンケート調査結果」から見てきたこと

「あすのば入学・新生活応援給付金」を利用した住民税非課税、生活保護家庭、児童養護施設や里親など社会的養護のもとで暮らす子どもたちとその保護者を対象としたアンケート調査を実施しました。

01 調査結果で見えてきた子どもの貧困の現状の一例



家庭の勤労月収(中央値)は
手取りで月11万4千円



高校1年生の3人に1人は入学
からおおよそ半年間でアルバイト
を始めている



アンケートに回答した世帯の
65%は子どもが小学生の頃ま
でに経済的に厳しくなった



保護者の41%は健康状態が
良くない状況

02 給付金を受け取った子どもの声の一例

自分は、野球部のマネージャーを務めていました。けれど、母子家庭で、下に2人妹と弟がいることもあり、部活動を辞めざるを得ない状況になりました。まだ辞めるか決めてはいませんが、辞めようと思っています。母子家庭がこんなにつらくて、苦しくて、父親がいないのがこんなに辛いことだと初めて気づきました。母は毎日、死ぬまで働いて、朝もお昼のお弁当も夜ご飯も作ってくれて、初めて母のありがたみが分かりました。感謝することが大事と部活で言い聞かされました。そのことがやっと分かりました。

貧困の解決に必要なこと

「どの子どもも取り残されことなく貧困のない社会をつくる」
だけではなく
「子どもたちと次の社会を一緒につくっていくこと」

子どもの貧困をなくすためには、さまざまな課題を解決することはもちろん、新しい明日をつくっていくことが大切です。あすのばでは、「子ども・若者委員会」を組織し、若者たちとともにアクションを進めています。

詳しい活動は次のページへ▶



あすのばの3つの活動

子どもの貧困対策をすすめるため、全国各地の子ども・若者委員とともに、彼らの声を大切にしながら「調査・研究と政策提言」「子どもたちを支えている人と組織への中間支援」「子ども・若者たちへの物心両面での直接支援」などの活動を行っています。



MESSAGE



「たすけてと言いたいときもある」。あすのば給付金を受けた子どもがアンケート用紙に書いたこの言葉をどう受け止めたらいいのでしょうか。そして、こうした言葉を発することもできないほどの困窮・孤立し、生きる意味を見いだせない子どもも少なくありません。加えて、貧困を親や家族などの責任に帰する社会の空気が子どもたちをさらに苦しめています。

そもそも日本は、子育てや教育における公的負担の割合が海外と比べて低水準であり、この水準をいかにあげるかも大きな課題です。どの子どもも取り残されることなく社会全体で育てる社会を目指し、子どもや若者たちをど真ん中において、彼らの声や思いを何より大切に、これからも歩みをすすめます。

公益財団法人あすのば代表理事 小河 光治

USNOVA Action1

調査・研究などに基づく
政策提言

→ P8

USNOVA Action2

全国各地で「子どもを支える人」を支える
中間支援

→ P10

USNOVA Action3

子どもたちへの物心両面での
直接支援

→ P12

USNOVA 活動年表

2015

- 子どもの日
- 山手線一周募金
- オープニングセレモニー
- 子どもの貧困対策センター設立準備会ミーティング
- 一般財団法人子どもの貧困対策センターあすのば設立
- 高校生・大学生世代合宿ミーティング（毎年8月）
- 子どもの貧困対策法成立2周年・センターのつどい（毎年6月）
- 「入学・新生活応援給付金」の募金活動「ここにいるよ。」プロジェクト開始（2018年度を除き毎年11月～2月）
- 交流会・意見交換会
- 大阪会場よりスタート（計6ヶ所）
- 子ども委員会発足総会、第1回全国集会（毎年12月）
- 「入学・新生活応援給付金」の募金活動「ここにいるよ。」プロジェクト開始（2018年度を除き毎年11月～2月）

2016

- 入学・新生活応援給付金受付（以降毎年11月～12月頃）
- 小・中学生合宿キャンプ（毎年3月）
- 公益財団法人へ移行
- 子ども委員会代表会・学生街頭キャンペーン（毎年6月）
- 子ども委員会代表会・学生街頭キャンペーン（毎年6月）
- 2016年度全国キャラバン
- 沖縄会場よりスタート（計6ヶ所）
- 子どもの貧困対策「見える化」プロジェクト「政令市・中核市子どもの貧困対策計画策定状況調査」調査結果報告書公開
- 「都道府県の子どもの貧困対策事業調査2016」調査結果発表

2017

- 支援者向け・レベルアップ研修会（毎年2月）
- 入学・新生活応援給付金聴き取り調査実施
- シンポジウム「地域で子どもの未来を支える」（港区受託事業スタート）
- 子どもの貧困対策「見える化」プロジェクト
- 2017年度全国キャラバン
- 千葉会場よりスタート（計9ヶ所）
- 子どもサポーター研修会（毎年5月）

2018

- 「子どもの生活と声1500人アンケート」最終報告
- 2018年度全国キャラバン
- 岩手会場よりスタート（計10ヶ所）
- 第1回地方議員フォーラム
- 市民協働フォーラム
- 「届けよう！市民の声子どもの貧困対策大綱の見直しに向けて」
- 日本×フィンランド国際ユースフォーラム

政策提言

調査・研究とそのデータなどに基づいた政策提言

子どもの貧困の実態を「見える化」し、具体的・建設的な政策提言・法律改正をすすめます。

(子どもの貧困の実態調査、研究者や実践者との連携による研究、子どもの声に基づく政策提言など)

政策提言

01 周年行事

2015～18年のべ参加人数

644人

子どもの貧困対策法成立と当法人設立(毎年6月19日)の記念事業です。法律成立や法人設立からのあゆみを振り返り、子どもの貧困の解消に向けた取り組みの推進や政府・各政党などがより一層対策をすすめるように働きかけました。



02 全国集会

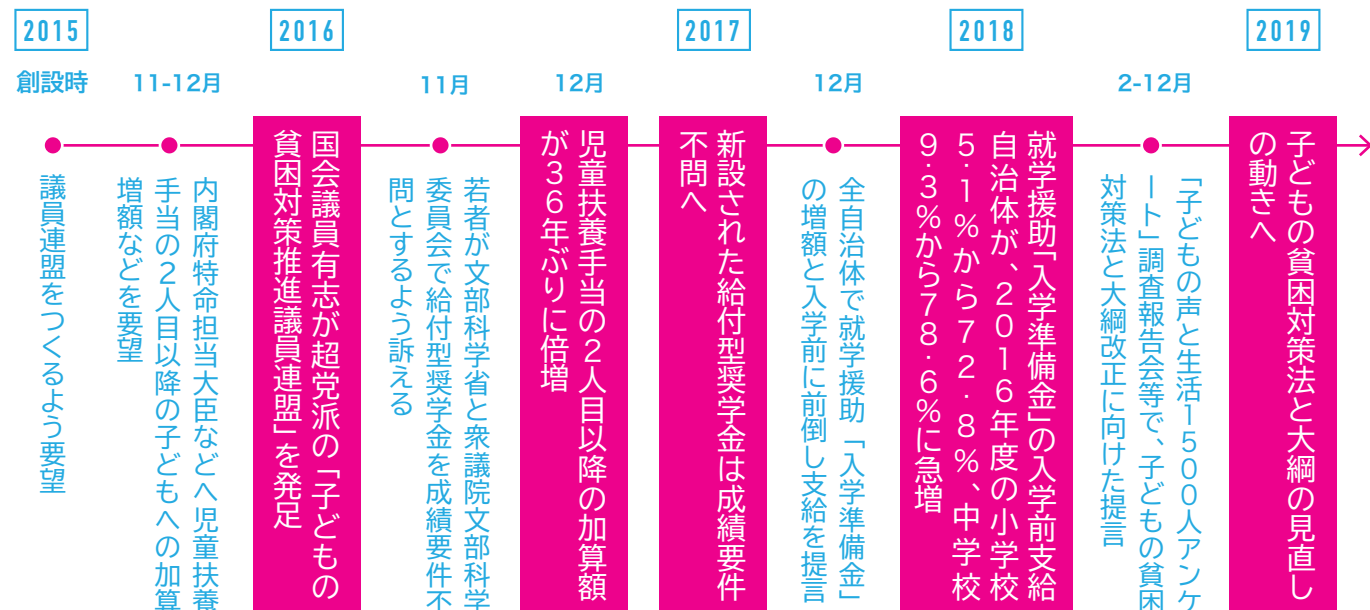
2015～18年のべ参加人数

712人

国の新年度予算編成における子どもの貧困対策施策の拡充に向けて、政策提言などを実施しました。2018年は「なくそう!子どもの貧困」全国ネットワークと共催で『市民協働フォーラム・届けよう!市民の声ー子どもの貧困対策大綱の見直しに向けて』を開催し、4年間の子どもの貧困対策の進展、課題について参加者同士で話し合いました。



Action&Outcome



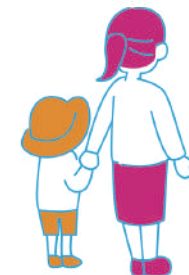
調査・研究

03 給付金利用者への訪問聞き取り調査

「あすのば入学・新生活応援給付金」を届けた子ども本人と保護者を対象としたアンケート調査では、ご協力いただいた方に訪問聞き取り調査も行いました。

保護者Hさん

DVが原因で離婚しました。高校では、遠征費用や宿泊代など運動部の費用がかかり生活費の工面に苦慮しました。正直、死ぬことも考えました。でも、母子家庭だから部活を我慢させるというのは納得できないので、続けさせて良かったと思っています。でも、子どもは鉄道が好きで、鉄道の専門学校への進学を志望していたのですが、今の家計状況では難しいため「ごめんなさい」と伝えて妥協し就職してもらいました。貯金する余裕がなく、保険も入っていないため、なにかあった時に対応できません。



04 子どもの貧困対策「見える化」プロジェクト

本調査は「子どもの貧困」の対策として各都道府県が行っている施策を全国横断的に把握し、参考となるグッド・プラクティスを見つけることを目的に、首都大学東京「子ども・若者貧困研究センター」及び日本大学と共同で行いました。

グッド・プラクティス(2016)から一部抜粋

○東京都 ひとり親世帯等への「児童育成手当」

父または母がいない等の児童を扶養している保護者に対し、所得制限を設け、児童一人につき月額13,500円を支給。

○沖縄県 沖縄県子どもの貧困率調査

県内8市町村において、住民税と社会保障給付のデータを用いて、子どもの相対的貧困率等を算出。行政データを用いて貧困率を推計する試みは全国初。



VOICE



各自治体における政策を進める一番の方法は、先駆的な他の自治体から学ぶことです。この「見える化」プロジェクトは、まさにそれを可能とするために実施したものです。プロジェクトの成果には、たくさんの自治体から問い合わせをいただきました。あすのばさんの機動力と、日本大学と首都大学東京の分析力が相乗効果となって大きな成果を残せたと思っています。

首都大学東京人文社学部 阿部 彩 教授

03

USNOVA Action2 中間支援

活動の持続・発展のため、支援団体への中間支援

『子どもを支える組織や人』をしっかりと支えることで、全国各地で充実した子どもを支える体制をつくることを目指しています。(全国の実践者とのつながり、活動の質の向上や団体基盤強化のための研修会など)

01 交流会・意見交換会(2015年)

一般市民の方を対象とした「あすのば交流会」と実践者の方を対象とした「意見交換会」を全国6会場で実施しました。



交流会・意見交換会in福岡

02 全国キャラバン(2016-18年)

さらに多くの方々が子どもの貧困対策への理解を深め、民間や自治体の支援体制がより充実したものとなるように、地域の実践者や若者、自治体、企業などと協力して、全国各地でパネルディスカッションなどを開催しました。



全国キャラバンin沖縄

VOICE

01

学校現場で働いている立場として、多くの共感や改善点があって勉強になりました。いろんな立場の人が、それぞれの役割を分担して子どもにさまざまな形で関わることの大切さを改めて感じました。(山口県・50代女性)

02

自分が見えていなかったもの、本当に必要としている人への支援方法を知ることができました。いろいろな団体と連携をとってつながり、必要としている人へ支援を届けていきたいです。(東京都・20代男性)

★PICK UP★ キャラバン開催後の地域の取り組み

2017年10月の全国キャラバンin熊本の開催を受けて、2018年8月、県内の市町村長らを対象とした「熊本県子どもの貧困対策トップセミナー」が開催され、首長ら105人が出席し、小河代表理事が基調講演をしました。熊本県では、小学5年生と中学2年生全員とその保護者を対象とした調査を実施。今後の対策推進には、市町村の役割も重要で、各市町村ごとの調査分析をはじめ、地域にあった施策をすすめる目的で開催されました。



熊本県の多くの市町村が参加

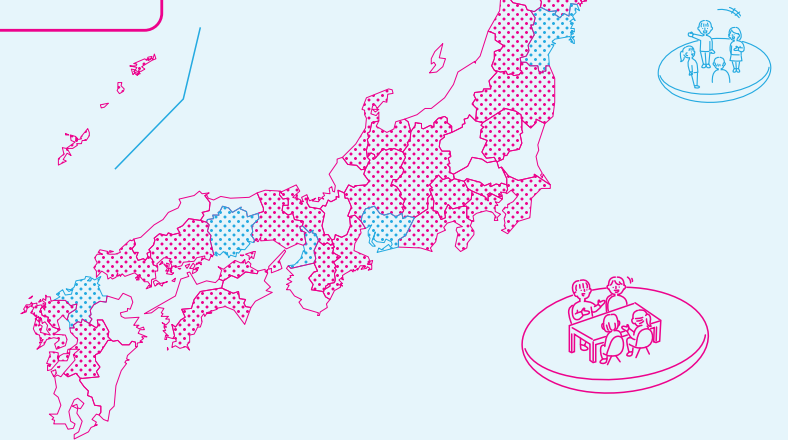
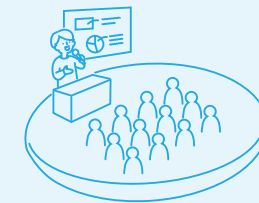
全国キャラバン開催地

Point

- ・そこで暮らす地域の方々が全国キャラバンの「主役」です。
- ・あすのばは「聞き手」です。地域の声をお聴かせください。
- ・地域全体で子どもを支える体制づくりを一緒に進めましょう。

あすのば交流会・意見交換会

全国キャラバン



※2019年3月現在、未開催県は2019年度・2020年度で実施予定

03 レベルアップ研修会

全国で活動する子ども支援団体のプレイヤーを対象とした研修会です。組織運営マネジメント、ケアワークスキルなどを幅広く学びます。また参加者同士の交流を通して、研修会終了後も切磋琢磨できる仲間をつくることができます。



レベルアップ研修会

参加団体数

	NPO法人	任意団体	社団法人	自治体	その他	合計
2017年2月	25	20	7	3	2	57
2018年2月	18	16	9	5	5	53
2019年2月	24	5	11	3	0	43

VOICE



NPO法人
サードプレイス代表理事
須田 洋平さん
(第1回目研修会に参加)

研修会に参加した動機はなんですか？

ちょうどNPO法人を立ち上げる時期で、「子どもの貧困」の社会課題や組織運営マネジメントを改めてしっかり学びたいというのが一番の目的でした。

研修会はどうな機会になりましたか？

いろんな参加者がいて、とても刺激になりました。合宿形式で強制的に学ぶ時間をつくることは、スイッチを入れる意味で本当によかったです。全国のトップランナーが講師

として、培ってきたノウハウを分けてくれたので、活動者として知りたい内容をそのまま学べました。

参加者・講師とのつながりはありますか？

自分がやりたい活動をすでにやっている人たちがいたので、視察に行きました。その街の雰囲気の中で活動の成り立ちを見ることで、自分たちの街にどう活かすか考えることができました。今でも日常的に連絡をとり、活動の参考にさせてもらっています。

直接支援

さまざまな困りごとを抱えた子ども・若者たちへの物心両面での直接支援

子ども・若者たちが「ひとりぼっちじゃないんだ」「応援してくれる人がいるんだ」と感じながら過ごせるように、物心両面で支えます。

01 入学・新生活応援給付金

春に卒業・入学を迎える経済的に苦しい子どもたちへの一時金の給付を行う。

さらに給付金利用者へ「合宿ミーティング」「合宿キャンプ」を案内し、つながりづくりへとつなげます。

若者たちの想いから始まりました！

ここにいるよ。プロジェクト



2015年、子どもたちに対して、社会の至る所に「あなたへの想いを寄せている人が、ここにいるよ。」というメッセージを伝えるために、若者らが全国で延べ1万人の寄付者・ボランティアの協力を目標として、街頭募金などのプロジェクトを開始しました。



『通販生活』読者の方々からの想いも加わり給付人数が増加！

2016年以降毎年、『通販生活』（株式会社カタログハウス発行）の特集記事として、入学・新生活応援給付金の募金を専用の郵便振替用紙も付けて呼びかけています。この3年間に、のべ62,548人の方から1億9,491万

6,811円ものご寄付をいただきました。あすのばの若者たちの街頭募金活動に共感して始めていただいたご支援が大きく拡がり、給付金を受けられる子どもが増えました。

給付金総額(2015-18年)

	給付人数	金額
2015年度	198人(申込者386人)	779万円
2016年度	2,256人(申込者3,263人)	8,997万円
2017年度	2,807人(申込者6,102人)	1億1,115万円
2018年度	1,768人(申込者2,664人)	7,068万円

※2016年から通販生活((株)カタログハウス発行)にて入学準備金カンパ特集が毎年冬号にてスタートする。

VOICE

高校受験、入学にかかる支出が多く、不安な時期でした。給付金のおかげで、入学を心から喜べるようになったと感じました。入学＝不安にならず良かったです。(保護者)

給付金の具体的な使い道

1 制服(252件)	7 カバン・バッグ(56件)
2 学用品(102件)	8 教科書(55件)
3 靴(86件)	9 通学(49件)
4 体操服・ジャージ(85件)	10 スーツ(49件)
5 入学費用(82件)	11 ランドセル(38件)
6 部活動(72件)	12 学費・自転車(31件)

※子どもの生活と声1500人アンケート最終報告より



02 合宿キャンプ(小・中学生対象) 毎年3月 / 合宿ミーティング(高校・大学生世代の若者対象) 毎年8月

全国各地のひとり親家庭や児童養護施設などで育った経験がある子ども・若者などを対象とした合宿です。高校・大学生世代の合宿では、これまでの経験や想いを共有する“シェアのば”を大切にしています。ここでの出会いが、子ども・若者たちの心の拠りどころとなり、日常生活をがんばる糧となることを願って開催しています。

VOICE



自分と同じような経験をもっている人と話せる機会が今までなくて、自分を隠したまま、作ったまま日常を送ることがくせになっていました。でも、話してもいいって周りが支えてくれて、変に同情するでもなく、かわいそうだと思うでもなく親身になってくれる大切な友だちをつくることができました。きっと一生モノの友だちです。本当に出会えてよかった。来てよかった。(大学生世代・女性)



今後の展望

全国各地の子ども・若者たちが、自分の暮らす地域に戻っても安心して過ごせるように、地域のみなさんと一緒に、このような場や仕組みを広げていきたいと願っています。





木戸 寛捺
 '17年度理事。'16~'17年度 内閣府子供の貧困対策に関する有識者会議構成員を務める。現在、大学4年生。

中山 真珠
 '18年度理事。学生時代は、関西地区の子ども食堂などでも活動。現在、社会人1年目。

久波 孝典
 '15~'16年度理事。立ち上げ時の中心メンバーで、国会や多くのメディアで自身の経験を発信。現在、社会人3年目。

工藤 鞠子
 '16,18年度理事。「ここにいるよ。プロジェクト」初代実行委員長。現在、大学4年生。

佐藤 寛太
 '16年度理事。あしなが育英会奨学生。学生時代は、東海地区で活動。現在、社会人3年目。

内山田 のぞみ
 '15年度初代理事。立ち上げ時の中心メンバー。多くのメディアで自身の経験を発信。現在、社会人4年目。

04

若者たちの座談会

あすのばでは、子ども・若者たちの声を大切に活動を行うため、子ども・若者委員会を組織しています。その代表者が若者理事として活動し、これまで社会に対してたくさん発信をしてきました。そんな彼らが、あすのばでの活動を改めて振り返り、子どもの貧困問題や社会に対する想いを話してくれました。

あすのばに関わり始めたきっかけは偶然。自分にできることはないかなと模索した。

佐藤: 僕の場合は、別の団体で活動していたとき、「お金はそこまで貧困ではないけど、家庭環境などがちょっと厳しい」という話をよく聞いていた。本当の貧困ってなんだろうって、何かわかるのではないかって思ってあすのばの活動に参加した。親がいないっていうのもきついけど、親がいてもつらいことがある。お金だけではないでしょ、って。

中山: 私は、子ども食堂をやっている母に誘われて研修会に参加したのが最初。子どもの貧困の「こ」の字も知らなかったけど、現状を知り、学生が社会に向けてメッセージを発信し、アクションを起こすという活動を初めてみて、その熱に感化された。子どものころに社会に対して感じていた疑問と、子どもの貧困で語られる問題がリンクして、それを他人事でほっとくのはいけないなと。自分も知らなきゃいけないし、何かできることないかなと模索した。

久波: 僕がずっと思っていたのは、ここの場所自体が居場所っぽい意味合いがあり、みんな救われたくて来た面もあるのではないかと。



「かわいそうな子どもたちに支援の手を」ではなく、「子ども = 未来」。

内山田: 「真面目に頑張っているけど、お金がない」という子に対して、「かわいそうだね、支援してあげるよ」という流れが

まだある気がして。「かわいそう」というフィルターをかけたうえでの支援は、もちろん嬉しいけれど、私自身もみんなもそうじゃない。貧困のかたちは昔と違って、いまは、もっと身近にいるような子、例えばスマホを持っていたり、三つ編みして、家事して、弟の面倒をみて、それでも成績優秀、みたいなイメージを持たれている気がする。

佐藤: それってすごくできた子だね。

内山田: でも、それがまだ貧困のイメージで、支援するなら頑張っている人じゃないって思われてしまう。

中山: 頑張れないことも、子どもたちの置かれている環境や状況が原因なんだけどね。

久波: 僕は、単純に話しているだけで悲壮感がでちゃう。その悲壮感が今の世の中では受け入れやすいから、取材を受けると記者さんもそっちに合わせて書こうとする。

内山田: あるメディア関係の人と話をしていた、「かわいそうな記事ばかりを書かないでください」という話をした。そしたら、「でもそういう記事が、WEBの記事で一番よく読まれるんですよ」って。「いやそういうことを言ってるんじゃない」って喧嘩しかけた。でも、よく読まれるための記事だから、かわいそうな物語のほうに関心があるという寂しい事実。

中山: スタートラインに立ってもらうという意味で、関心を持ってもらうことはすごく大事なことだと思うけど、メッセージが逆の方向に進んじっている。

工藤: とりあえず子どもの貧困というものは認知されたけどその中身はもっとしっかりと伝えていかないと、という感じ。



寛容のない社会を変えたかった。

中山: 小・中学生の合宿に参加した保護者さんや給付金を受け取った方々への聞き取り調査で話した保護者さんの声が、自分の中で印象に残っている。自分を責めてしまっている保護者さんがすごく多い。子どもの貧困って子どもだけの問題じゃないともっと社会に認識してほしい。

久波: 僕は、寛容がない社会を変えたいと思っていた。

内山田: 子どもの貧困だと、イコール親が悪いという認識がまだまだ多い。



中山: 根本的な自己責任論が、まだ全然変わっていない。

木戸: 「子どもの貧困は家庭が悪いでしょ」と片づけられるのがすごい嫌。奨学金制度があるのは、そもそも社会のシステムとしてうまく成り立っていないからであって、奨学金を返せなくて困ってる人がでてきて。それは家庭の問題なのか、社会の問題なのかと。それを社会の問題として捉える人を一人でも増やしたいと思って、ずっと発信をしてきている。

久波: 関心がまったくない人に関心を持ってもらうことは結構難しいと思っている。例えば僕は、こういう活動と全然関係ないところで出会った人と親の話になり、「実は僕はこういう生い立ちで」って話をしたら、その人が子どもの貧困の問題を知って行動してくれたことがあった。きつと、そういう地道なことでもしか理解してもらうことは難しいのかなと。

内山田: 子どもの貧困がこれだけ社会に伝わってきた背景には、やっぱり若者が発信をしたからという理由もあると思う。当事者が出るというのは、情報としては強いと思う。この若者が自分の話をしているということで、人は見てくれるのかなと思ってる。

佐藤: 発信をしていたときに嬉しかった応援は、めっちゃ些細だけど、「こういうことをやってますよ」とか「記事載りました」とSNSに上げたら、すごく久しぶりの人が、いいねやリツイートをしてくれた。まったく興味のない人たちが、興味をもってシェアまでしてくれたことは、かなり大事だと僕は思っていて、ちゃんとわかってくれたんだなとすごくうれしかった。

工藤: 街頭募金をやってきて、最初のころよりすごく入れてくれる人、足を止めてくれる人が増えたり、飲み物やお菓子をいただいたり、そういうのがあると嬉しいと思う。一方で、子どもの貧困って本当に理解してもらって変わっていくためには、子どもにフォーカスが当たっているうちはだめなのではと思っていて。結局、親(家庭)の貧困の問題だし、労働の問題だし、社会制度の問題だしみたいな。だから発信のしかたも、子どもの生活だけ描いても、結局子どもしか見ていない。

中山: だから実感がわからない。社会の問題で制度に抜け落ちているところがあってというアプローチをすると、自分も関わっている感じがする。

工藤: 制度だとまだ遠いけど、社会の認識とか不寛容とか、そのあたりがせめて少しでも変わってくれるとうれしいと思う。

05 啓発活動

東京都港区「子どもの未来応援施策理解促進事業」

(受託事業)

港区における子どもの貧困対策の理解促進と、地域で子どもを支えるネットワークをつくるための啓発活動をコーディネートしました。



01 2017年8月 子どもの未来応援フェスタ

大学生らが実行委員となり、子どもたちが未来を考えるきっかけとなるフェスタを開催しました。



02 2017年12月～2018年1月 地域交流会

港区内5地区で地域の方との意見交換会を実施。区内の子どもたちを取り巻く環境や状況について話し合いました。



03 2018年8～11月 子ども・若者支援をはじめよう講座

支援をはじめたい方に向けた全5回の研修会を行いました。



04 2019年1月 MINATO学生フェス

赤坂中高生プラザ「なんで～も委員会」とのコラボレーションし、中高生と大学生世代の若者たちが交流しました。

あすのばの メディア掲載・講演実績

新聞



120件

テレビ



13件

ウェブニュース



6件

ラジオ



1件

講演会



99件

新聞・テレビ

2015.05.06

●毎日新聞「子供の貧困なくそう 来月、対策センター設立」

2017.2.12

●NHKスペシャル「見えない“貧困”～未来を奪われる子どもたち～」

2018.02.14

●東京新聞ほか「貧困家庭7割塾・習い事断念」給付金1500人調査中間報告

2018.03.16

●読売新聞「論点・子どもの貧困社会の課題」

2018.11.20

●朝日新聞「耕論・冷たい自己責任論 『頼らず孤立』強いる社会」



朝日新聞記事

06

あすのば応援団 のご案内

あすのばは、子どもたちの困りごとやしんどさに寄り添い、彼らの声を社会に届けることを目指します。困ったときに「助けて」と言える。やりたいことをあきらめなくてすむ。そんな希望あふれる社会を目指して、私たちと一緒に子どもたちを支えていただけませんか？

ご寄付の活用先

お預かりしたご寄付は85%をキャンプ開催や子ども若者委員会の活動に必要な経費をはじめとした事業費として、15%を財団運営全般に必要な管理費として大切に使用させていただきます。

詳細はWEBをご覧ください！



あすのば応援団概要（継続寄付）

金額	500円～好きな金額をお選びいただけます。
期間	①毎月 ②半年ごと ③年1回 からお選びいただけます。
お支払い方法	① クレジットカード ② 口座振替 ③ 銀行振込 / 郵便振替 からお選びいただけます。

※単発のご寄付・遺贈も受け付けておりますので詳細はWEBサイトをご覧ください。

※あすのばへのご寄付は、所得税・法人税などの税制度の優遇措置（寄付金控除）が受けられます。

寄付者 INTERVIEW



政策提言など子ども・若者を支える
仕組みづくりの必要性を発信してほしいですね。

佐野 真也さん(43歳)

あすのばのみなさんには、実際に活動してくださってありがとうございます。2015年にあすのばが設立されたこと、さらにその年末に入学・新生活応援給付金の「ここにいるよ。」募金キャンペーンが開始されたことを知り、継続的な寄付支援「あすのば応援団」に応募しました。

あすのばへは、子ども・若者たちへの直接支援にも期待はしますが、それ以上に政策提言や子どもの貧困対策法・大綱の改正など、子ども・若者を支える仕組み作りの必要性を多くの方々に知らせてほしいですね。私自身は、非常に優秀な教え子が、経済的理由で退学した時に何もできませんでした。その時に頭に浮かんだのは、小学2年生のときに、幼い頃から可愛がって

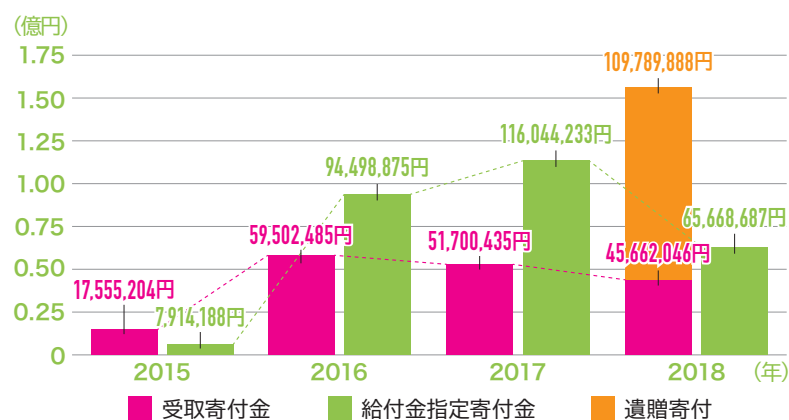
くれた叔父が29歳の若さで交通事故死したことや、父親が零細な農家で生まれ育ったために、能力があっても進学を断念せざるを得なかったことなどでした。そして、自分自身が何不自由なく教育を受けたのは当たり前のことではなく、いかに恵まれた環境だったのかということを考えました。

また、自分が何もしてこなかったことへの後ろめたさや罪悪感のようなものさえ生まれました。それまでは関心が強くありませんでしたが、子ども・若者が抱える諸問題は、他人事から自分事になり、何か行動しなければと突き動かされたのが、あすのば応援団への参加の第一歩になりました。

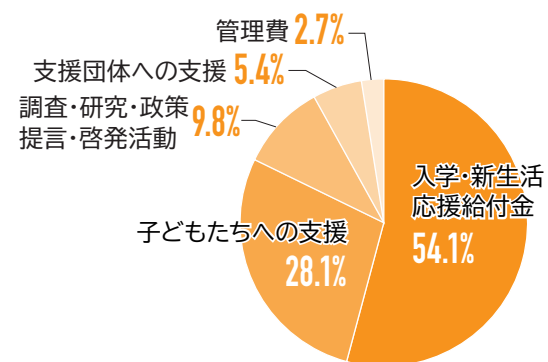
企業・団体からも、ご寄付での支援や社員ボランティアなどご協力をいただいています。

2018年度の収支

寄付金内訳



事業別費用内訳



2018年度の子どもの貧困対策事業への寄附は、前年度より大幅に増加しています。これは、2018年度に多額の遺贈寄附(1件)があったことが理由で、用途を厳正に協議し、今後有効に活用させていただきます。この遺贈寄附を除くと、受取寄附は公益化した2016年度以降減少している状況です。一方、給付金指定寄附は、多くの方々のご協力をいただき、初年度と

比べて約8倍となり、より多くの子どもたちへ支援を届けることができました。しかし、子どもの貧困対策の推進は引き続き喫緊の課題であり、全国各地で支援を必要とする子どもたちに伝えるためにも、今後も安定した運営ができるよう努めていきます。

正味財産増減計算書

科目	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度
I 一般正味財産増減の部				
(1) 経常収益 事業収益	858,439	2,258,588	2,339,938	2,687,782
受取補助金等	0	4,147,885	7,498,880	3,935,273
受取寄附金	20,207,865	120,328,486	159,674,636	124,776,585
(うち子どもの貧困対策事業等)	(12,417,865)	(30,358,486)	(48,484,636)	(54,016,585)
(うち給付金指定寄附)	(7,790,000)	(89,970,000)	(111,190,000)	(70,760,000)
雑収益	598	418	539	749
経常収益合計	21,066,902	126,735,377	169,513,993	131,400,389
(2) 経常費用 人件費	2,783,726	13,429,426	26,747,662	28,721,777
給付金支給	7,790,000	89,970,000	111,190,000	70,760,000
その他事業費	10,485,877	23,194,291	31,591,754	31,408,934
経常費用合計	21,059,603	126,593,717	169,529,416	130,890,711
当期一般正味財産増減額	7,299	141,660	△ 15,423	509,678
一般正味財産期首残高	0	7,299	148,959	133,536
一般正味財産期末残高	7,299	148,959	133,536	643,214
II 指定正味財産増減の部				
受取寄附金	25,469,392	154,001,360	167,744,668	221,120,621
寄附金振替額	20,207,865	120,328,486	159,674,636	124,776,585
当期指定正味財産増減額	5,261,527	33,672,874	8,070,032	96,344,036
指定正味財産期首残高	3,000,000	8,261,527	41,934,401	50,004,433
指定正味財産期末残高	8,261,527	41,934,401	50,004,433	146,348,469
III 正味財産期末残高	8,268,826	42,083,360	50,137,969	146,991,683

団体役員

代表理事

小河 光治(あしなが育英会 元理事)

副代表 理事

村井 琢哉(山科醍醐こどものひろば 理事長)

理事

末富 芳(日本大学文理学部 教授)

菅井 裕貴(東京農業大学 4年)

花澤 昂乃(慶応義塾大学 3年)

東岡 伶弥(大阪産業大学 3年)

安田 香澄(京都府立大学大学院修士 1年)

監事

津久井 進(弁護士・芦屋西宮市民法律事務所)

本郷 順子(税理士・行政書士・本郷順子税理士事務所)

評議員

赤石千衣子(しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事長)

高橋 亜美(アフターケア相談所ゆずりは 代表)

徳丸ゆき子(CPAO 理事長)

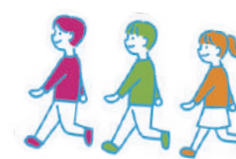
宮本みち子(内閣府「子供の貧困対策に関する有識者会議」座長・放送大学/千葉大学 名誉教授)

村上 吉宣(社会活動家・ピアソーシャルワーカー)

幸重 忠孝(こどもソーシャルワークセンター 理事長・滋賀県スクールソーシャルワーカー)

渡 剛(あっとすくーる 理事長)

(2019年6月現在)



アドバイザー

北海道

高橋 勇造 Kacotam 理事長

松本 伊智朗 北海道大学大学院教育学研究院 教授

山田 大樹 訪問と居場所漂流教室 代表

東北

大橋 雄介 アスイク 代表理事

門馬 優 TEDIC 代表理事

山屋 理恵 インクルいいわて 理事長

関東

今井 悠介 チャンス・フォー・チルドレン 代表理事

栗林 知絵子 豊島子どもWAKUWAKUネットワーク 理事長

湯浅 誠 社会活動家・東京大学 特任教授

中部

田中 高久 アンビシャス・ネットワーク 代表理事

南出 吉祥 岐阜大学地域科学部 准教授

関西

桂 浄薫 おてらおやつクラブ 事務局長

日野 貴博 学習支援ボランティア団体Atlas(アトラス) 代表

中国・四国

直島 克樹 川崎医療福祉大学医療福祉学科 講師

九州・沖縄

秋吉 晴子 しんぐるまざあず・ふぉーらむ沖縄 代表

谷口 仁史 NPOスチューデント・サポート・フェイス 代表理事

田口 吾郎 いるかねっと 代表理事

法人名 公益財団法人あすのば

設立 2015年6月19日

公益財団法人移行日 2016年4月1日

事務局

柳瀬 和夫(参与) 村尾 政樹(事務局長) 石神 貴之

佐藤 真紀 高見 行紀 久富 はるか 増川 美由喜

